

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」  
メニュー①－1 学力向上実践研究（小・中学校）  
平成22年度委託事業完了報告書  
【推進校】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進校名	山口県阿武郡阿武町立奈古小学校	研究主題	I・II型
------	-----------------	------	-------

○ 推進校として実施した研究内容

1 重点課題への取組状況

6年生の全国学力調査と併せて2～5年生CRT検査、SET検査を3年連続実施した結果、本校の課題が、

- 文章を正確に読み、イメージすること
- 伝えたいことを整理し、適切な言葉を使って表現すること
- 図表を見て題意を把握すること

であることを踏まえて、研究主題と重点課題を以下のように設定した。

1年次（平成20年度）

「確かな学力の育成」 ～自ら学び、他と関わり、意欲をもって活動する児童をめざして～

- 授業改善
- 家庭学習の充実
- 基本的な生活習慣の定着
- 体力の向上

2年次（平成21年度）

「確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成」 ～言語活動の充実を通して～

- 相手に分かりやすい話し方
- 相手の意図を正確にとらえる聞き方
- 思考の足跡が残るノートのまとめ方
- 意見交流の中で学び合い高まる授業

3年次（平成22年度）

「確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成」～伝え合い響き合う授業をめざして～

- お互いを高め合う授業
- 教師力の向上
- 学習環境の整備
- PTAや地域との連携

(1) お互いを高め合う授業

① 授業形態の工夫

ペアやグループによる話し合いを行った。算数科においても、考え方を説明する活動に重点を置いて取り組んだ。言葉を選んだり、絵や図を指して説明したりするなど、相手に分かりやすく伝えようとする意識が強くなった。

② 分かりやすい話し方、正確な聞き方の習得

話す名人、聞く名人レベル表を作成し、教室に掲示している。話し方・聞き方の目安を示し、学校生活や授業の中で機会をとらえて児童をほめることで、考えながら話すこと、集中して聞くことができるようになった。

(話し合いの様子)



相手に分かりやすく伝えるために

- ・自分の考えを書く。
- ・書いた原稿を推敲する。
- ・絵、図、グラフや既習の資料などを活用する。

相手の主張を聞く力を育てるために

- ・話し手とアイコンタクトをとる。
- ・メモをとる。
- ・自分の意見と比較する。
- ・自分の意見と関連づける。

話す力	レベル	聞く力
<ul style="list-style-type: none"> <li>たとえは〜</li> <li>この絵をみると〜</li> <li>身ぶり、手ぶり</li> <li>ぼうでししながら</li> <li>話の順序を入れかえて</li> <li>一番言いたいことを最初や最後</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>〜伝えたいことは〜</li> <li>〇さんの言いたいことは〜かな？</li> <li>たぶん〜かな？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜかという〜だからです。</li> <li>言いかえる〜です。</li> <li>まとめる〜です。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の柱が〇</li> <li>メモしながら</li> <li>キーワードは？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに〜</li> <li>次に〜</li> <li>最後に〜</li> <li>1つは〜</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つは〜2つは〜</li> <li>ゆびで数えながら</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>はきは〜です。</li> <li>わたしは〜です。</li> <li>〜と思います。</li> <li>〜だからです。</li> <li>〜と考えました。</li> <li>みなさんどうですか？</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい！</li> <li>わかりました！</li> <li>同じです！</li> <li>いいと思います！</li> <li>もう一度おねがします。</li> <li>なるほど！</li> <li>それのことか。</li> <li>そうそう！</li> <li>へえ！</li> <li>そうかな？</li> <li>それで？</li> <li>音を立てる</li> <li>音を書き加える</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>順序よく</li> <li>はっきりと大きく最後まで</li> <li>みんなの方を向いて</li> <li>まっすぐ手をあげまっすぐ立つ</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>返事をしたりうなずいたりして</li> <li>話している人に顔を向けて</li> </ul>
	1	よいしせい

(話す聞く名人レベル表)

- ③ 高め合う話し合いにするために
- ・自分の考えの根拠をはっきりと示す。
  - ・友だちの意見につなげる。
  - ・お互いの意見を練り合わせる。
- ※ 司会役の児童には、話し合い進行の手引きを示して、練習させる。

### 調査報告会の進め方

● 司会

● 今から〇〇グループによる調査報告会を始めます。

● 調査で分かったことを発表してください。

● ぼたの〇〇グループの報告を始めます。

①最初に私たちが調べたのは……

②次に……

③次に……

④次に……

⑤次に……

● 今日の〇〇グループの調査報告会を早く終わらせたかったら……

● 一番心に残ったのは……司会者の発言や発表……

● ……発表や質問者から言ってくれた人内程……

● ……これで調査報告会を終わります。

(調査報告会の進め方)

- (2) 教師力向上のために
- ① 研究授業の増加
- 講師を招聘し、年5回の校内研修会を実施。全学級で研究授業を行った。教科は、国語算数で、講師の専門的で幅広い指導により、教師の指導力と意欲が向上した。
- ② オープンクラス (授業公開)
- 学期に1回、1時間の授業を全教員に公開し、参観者から意見や感想を書いたメモを授業者に渡している。メモを基に放課後等に教員同士が意見交換を行っている。

- (3) 学習環境の整備
- ① 話す聞くスキルの活用
- 国語の授業や朝の会・帰りの会などで音読、暗唱をしている。現代文・古典・言葉遊びなどの多くの文章に触れ、暗唱することで、読むことの楽しさ、音読のおもしろさを感じている。また、練習したことをアレンジしてスタディフェスタ2010で発表するなど、表現する楽しさも感じている。

② フリートーク

朝の会や帰りの会で「どうですかタイム」や「ニュースタイム」と称して、学年相応のトークを行っている。感想や質問を行うことで人前で話すことに慣れると同時に、集中して話を聞く態度を育てることができた。

③ ノート指導

ノートの極意10カ条を各教室に掲示。担任が意識して系統的なノート指導を行った。ノートの書き方が統一され、すっきりとまとめることができるようになった。徐々に全学年で効果が感じられるようになり、高学年では自分の思いや学習の振り返りなどについても表せるようになった。

#### ノートの極意10カ条

奈良小学校教員心得

1 日付・見出し・ページを書くべし	6 色は3色までにすべし
2 問題番号を書くべし	7 箇条書きにするべし
3 間を空けるべし	8 強調・区切りをつけるべし
4 縦横をそろえるべし	9 記号・吹き出し・キャラをかきべし
5 定規を使うべし	10 振り返りを書くべし

※下書きをしくは当然なり  
※友達のをしるべき、自分の考えを深めるべし

(ノートの極意10カ条)

④ チャレンジ学習の継続と改善

毎週月曜日5校時、全学年で実施。国語と算数の全学年全領域のプリントを児童が選んで行う。現学年の児童のつまずきを解消するため、既習の学習を振り返っておさらいすることができた。また、一昨年より保護者の採点ボランティアの方の協力で、教師の個別指導が行えるようになった。児童個人が自分の現状にあった問題を行うことで、個に応じた学習の場を設けることができた。

(4) P T Aや地域との連携

① くすのきボランティア（読み聞かせ）

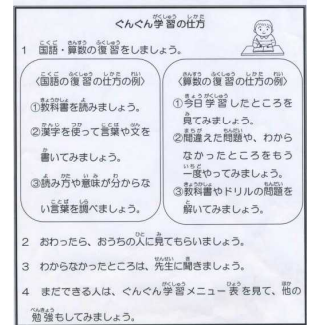
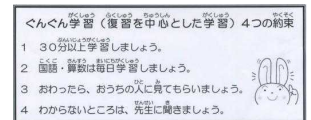
保護者の読み聞かせグループ（くすのきボランティア）の方により、週2回朝の活動時間（15分間）に読み聞かせを行っている。今年度も、多くの方が登録され、1～6年全クラスで計画的に行われた。学年に応じたいろいろな本を用意され、児童は朝の始まりを本の世界に浸ることから始めている。



読み聞かせボランティア

② 家庭学習（ぐんぐん学習）の充実

宿題以外の家庭学習を奨励。家庭学習（ぐんぐん学習）の手引きを全家庭に配布。国語・算数の復習を中心とし、1日30分以上（高学年は学年×10分）の学習時間の確保と、保護者に子どもの学習に関わってもらうことをねらって行っている。即時確認、即時評価により児童のやる気を促している。

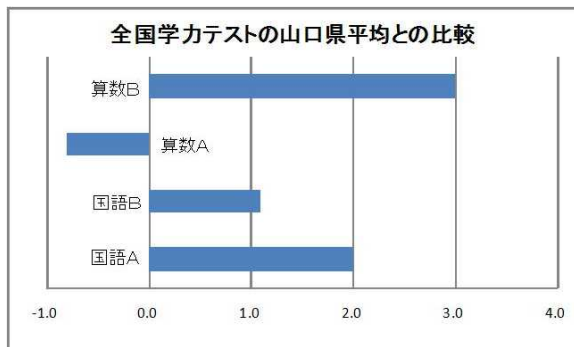


（ぐんぐん学習の手引き）

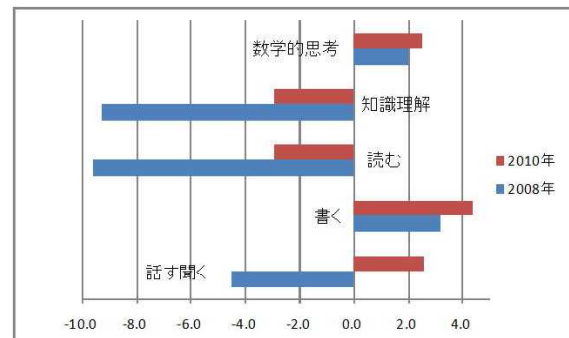
2 成果及び課題

(1) 成果

- よく聞き、よく考え、相手に分かりやすく伝える意識が強くなった。
- 話す聞くことに対する基準を示したことで、系統的に話し方・聞き方が身に付いた。
- 写すだけのノートから思考の足跡が残るノートへ変わってきた。
- チャレンジ学習の充実で、既習の内容がより定着してきた。
- 保護者の協力により、教師が個別指導できる体制が整ってきた。
- 全国学力学習状況調査やC R Tテストの結果では、全国平均を上回ったり、近づいたりする観点が増えた。



（全国学力学習状況調査の県との比較）



（C R Tテスト全国平均との比較）

：現6年生の4年生時との比較）

- 地域の方々と関わる場面を設定することで、相手を意識して話すことができるようになってきた。
- 保護者へのアンケートを基に取り組みを改善したり、参観日にノートの紹介をして家庭学習の協力を求めたりして、学校と家庭が連携して家庭学習の充実に取り組めた。

(2) 課題

- 相手の考えと関連付けて自分の考えを述べることができるように伝え合う力を高めていく。
- 伝え合う力を、理解力・思考力・判断力の向上へ結び付ける。